

秋田県立秋田高等学校 中期ビジョン（5か年計画、H28年度～H32年度）

本校が目指す5年後の姿（具体的な目標）

1 学校の現状や課題

(1) 現状

①「文武両道」、「自主自律」の充実

伝統校として、進学実績や部活動の活躍に対する地域社会からの期待は大きく、文武両道と自主自律を標榜する教育活動のもとで、多くの生徒がその期待にこたえている。

②大学進学に対応した学習環境

社会の変化に柔軟に対応できる資質・能力を育てるために、主体的、協働的かつ探究的な学びであるアクティブ・ラーニングの実践などによる授業改善が求められている。

③国際的な活躍を目指すグローバル教育

将来グローバル社会でリーダーシップを発揮できるよう、豊かな人間性を育むとともに、他者と協調・協働しながら課題解決できる社会性の育成を図っている。

④人間形成の視点に立ったキャリア教育と主権者教育

社会から求められる人材の育成を目指したキャリア教育の実践とともに、選挙権年齢引き下げに伴い、主権者教育を通して諸課題に対する意見を主張できる生徒を育成している。

(2) 課題

①自主自律の精神と態度の育成

学業と部活動において、より高いレベルでの実現を目指そうとする意欲を喚起するとともに、あらゆる教育活動において、生徒の主体性が発揮される場面を設定し、自主自律の精神と態度の育成に一層努める必要がある。

②時代に合った教育課程の設定

学習指導、進路指導、生徒指導等の各種教員研修を一層充実させ、学習指導要領改訂や高大接続等の教育改革に的確に対応することが必要である。時代のニーズや大学入試の動向を踏まえたカリキュラムの最適化を継続的に行わなければならない。

③異文化に対する興味・関心の昂揚

現在、県教育委員会や本校同窓会主催の海外派遣交流はあるものの、留学希望者や海外交流生の受け入れが少ないのが現状である。異文化に対する関心を高め、幅広い知識と教養を身に付けさせるための教育活動の推進が求められている。

④キャリア教育と主権者教育のより一層の充実

「賢い」未来の主権者であると同時に社会のリーダーとして活躍できる人材を育てるために、すべての教育活動を通して、他者の意見を理解し、論理的に考え、自分自身で判断し行動できる力を養うことが重要である。

2 学校を取り巻く将来の状況の予測

これからは知識基盤社会が本格化し、情報社会の高度化やグローバル化の急速な進展など大きく変化することが予測される。国内（特に県内）においては人口減少や少子高齢化による生産年齢人口の低下、国際的には環境問題やエネルギー問題、格差の拡大等、人類共通の課題もより顕在化することが予測される。産業構造の変化に伴い、必要な知識や技術も時々刻々と変わり、更には社会のイノベーションやICT（情報通信技術）等の進歩により、現時点では予想できない新たな職業が生まれる可能性もある。このような状況の中で、学校に求められるものも多様化している。

3 目指す方向性や学校像

- (1) 高い志を育て、自主自律の精神を鍛え、高い次元での文武両道の実現を目指す。
- (2) 豊かな人間性を育むとともに、グローバルな視野で考え行動できる能力を伸ばし、将来、社会の多方面でリーダーとして活躍できる人材の育成を目指す。
- (3) 社会的自立や社会参画の力を育む。
- (4) 教育改革や県の教育施策を正確かつ迅速に把握し、教育環境を整え教育活動の充実を図る。
- (5) 本校の特色化、活性化をより一層図るとともに、教育活動の検証と発信に努める。

4 5年間を通しての具体的な目標

(1) 文武両道、自主自律の充実

- ①自主自律の精神や人間性の涵養、品性の陶冶
- ②進路志望で第一志望を達成するために、高い次元で努力する生徒の育成
- ③各部の全国大会出場など部活動の一層の活性化
- ④生徒会行事、学校行事等の一層の充実

- (2) グローバル教育の実践
 - ①世界規模の課題に対応する態度の育成
 - ②異文化や国際交流に対する意識の醸成
- (3) キャリア教育・主権者教育への取組
 - ①未来を担う責任と主権者としての権利の理解
 - ②課題解決のために主体的に取り組む力の養成
- (4) 教育環境の整備等
 - ①学校評価活動や教員研修（授業研修会等）の充実
 - ②保護者や地域社会、同窓会との連携の強化



具体的な取組等

- 1 品性の陶冶 —社会に貢献する人間性豊かな生徒を育てるために—
 - (1) キャリア教育の観点を踏まえ、「自ら考え行動できる生徒」を育てる。
 - ①進路指導を通して、将来の在り方や生き方を考え、自己の将来設計ができるようにさせる。
 - ②外部講師による講話などにより、「自己実現」や「社会貢献」についての考察を深めさせる。
 - ③学校行事を通し、他者とコミュニケーションを図り、協力・協働して物事に取り組ませる。
 - ④社会の一員であることの自覚を深めるため、ボランティア活動への積極的な参加を促す。
 - (2) グローバルリーダーの育成
 - ①生徒の言語能力を高めながら異文化理解を深め、国際的な視野や幅広い教養を身に付けさせるため、海外派遣交流や海外留学、留学生受け入れ等、国際交流を推進する。
 - ②海外で活躍している各界のリーダーを招き、講演会等を通して、グローバル感覚を養わせる。
- 2 学力の充実 —自ら進路達成や自己実現を図るために—
 - (1) 授業の充実
 - ①将来、社会において必要とされる資質・能力を身に付けさせるために、アクティブ・ラーニングなどの指導法の研修を充実させ、授業改善を一層推進する。
 - ②研究授業における事前研究や授業後の検討会等、組織的な授業研究を充実させる。日常的に相互に授業を見ることで、授業力を高め合う態勢を創り出す。
 - ③難関大学に合格できるレベルを意識した授業を行う。
 - ④これまで行ってきた難関大学等の入試問題研究を継続するとともに、過去数年分の入試問題を分析し、如月講座など本校独自の大学別二次対策指導を行う。
 - ⑤英語検定等の資格取得、科学甲子園やエコノミクス甲子園、数学・科学オリンピック等への積極的な参加を呼びかける。

(2) 主体的に進路実現に取り組む態度の育成

- ① LHRや面談等を通して、学ぶことや働くことの意義を理解させ、自己の進路や生き方を多角的に考察する態度を育む。
- ② 教科担当や学年主任などクラス担任以外の教師も面談を行い、様々な角度からの指導を行う。
- ③ 進路資料「北雄」と卒業生の体験記「北雄（みちしるべ）」を有効に活用するとともに、各学年において進路通信「羅針盤」を定期的に発行することで、進路に対する意識を高めさせる。
- ④ 東北大、東大等のオープンキャンパスに積極的に参加することにより、進路目標の明確化を図らせる。

(3) 卒業生や大学教員等外部人材の活用

- ① 社会で活躍している卒業生や著名人を招いて講演会や座談会を行い、将来に対する関心を深め、主体的に進路達成や自己実現に取り組む態度を育む。
- ② 大学教員や予備校講師を活用することによって、自己の進路や学習方法、課題研究等への視野を広げ、考察を深めさせる。

(4) 新しい大学入試に対応する教育課程の編成

- ① 学習指導要領の改訂や「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の実施を視野に入れて、その対策を十分に行う。
- ② 受験科目等の入試情報を十分検討し、教育課程を編成する。

(5) 学校全体での情報の共有と他校との情報交換

- ① 全職員による進路検討会、情報交換会、分析会などの内容の一層の充実を図りながら、学校全体で情報を共有し、職員間の共通理解を深める。
- ② 秋田県進学12高校会議や北東北五校進学連絡協議会、東北地区大学進学六校連絡協議会での情報交換を積極的に進める。

3 心身の錬磨 一部活動や学校行事を通し、心身のたくましさを培うために一

- (1) すべての教育活動を通して人間力の向上を図り、心身ともに健全でたくましい人間を育成する。
- (2) 生徒数の減少に対応し部活動の精選と焦点化を図る。運動部は常に全国大会出場を目指し、文化部も各コンクールで全国大会入賞を目指す。
- (3) 生徒会行事や学校行事を更に充実させ、地域社会のみならず、県内外に広く発信する。集団での活動を通して、人間関係形成能力や社会形成能力を高めさせる。

4 キャリア教育の推進 一わが生わが世の天職いかに（校歌より）一

(1) キャリア教育推進委員会の活動

- ① あらゆる教育活動において、人間性を高める環境づくりに努めるとともに、社会的・職業的自立に必要な基礎的・汎用的能力を高める。
- ② 生徒の自己理解と職業への関心を深めさせるとともに、生涯にわたって学び続ける態度を育成する。

(2) キャリア教育を意識した具体的な取組

- ① 授業におけるキャリア教育の一層の充実
 - ・ 日々の授業の中で、キャリア教育の視点から個々の生徒の進路志望に応じた適切な支援を行うとともに、生徒が主体的に取り組む態度の育成を目指して、授業の充実を図る。
 - ・ 教育活動全体において計画的、系統的にキャリア教育を実践するとともに、授業改善等の校内研修を通して、キャリア教育の充実に取り組む。
- ② 北雄合宿
 - ・ 1年生を対象に宿泊合宿を実施する。学習の進め方の体得や学級・学年集団という意識の形成を図るとともに、各界で活躍している卒業生等の講演を通して職業観の育成を図る。秋高生としての高校三年間の指針を探らせる。
- ③ 佐々木毅杯一知の探究コンテスト
 - ・ 生徒の課題発見能力や課題解決能力、プレゼンテーション能力等の更なる向上を図るため、1、2年生を対象として、グループによる課題への協働的な探究活動を行わせる。
- ④ 読書活動の推進
 - ・ 優れた文章に親しむことで、多様な視点や広い視野を獲得し、知識と教養を深め、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。また、授業等において、積極的に図書館を活用する工夫を努める。
- ⑤ PTAや地域、同窓会等の社会人講師の活用
 - ・ 望ましい生き方や職業観、勤労観を身に付けさせるため、積極的に社会人講師を活用する。